

# 議会運営委員会県外行政視察レポート

委員長 高見美加

このたび、議会運営委員会は、岡山県、広島県及び山口県を訪問し、①岡山県議会、②広島県議会及び③山口県議会における議会運営の状況について、④広島県商工労働局において「ひろしまユニコーン10」プロジェクトについて行政視察を行ったところであり、その概要をレポートする。

## 1 日程及び視察先

- 令和7年4月23日（水）岡山県議会（岡山県岡山市）  
4月24日（木）広島県議会（広島県広島市）  
広島県商工労働局（広島県広島市）  
4月25日（金）山口県議会（山口県山口市）

## 2 参加委員等

高見美加	中川隆一	高橋直揮	笠原義宗
与口善之	河原井拓也	上杉知之	樋口秀敏
小泉勝	大平一貴	皆川雄二	小島義徳

## 3 視察先の概要

### 岡山県議会 ～議会運営の状況について～

- 議員定数 定数 55人、現員 55人
- 会派別議員数 自由民主党 34、民主・県民クラブ 10、公明党 6、日本共産党 3、無所属 2
- 議会運営委員会 定数 11人  
〔自由民主党 8、民主・県民クラブ 2、公明党 1〕
- 本会議の運営
  - 代表質問  
割当方法 4人以上の会派 各1人  
質問方式 一括質問・一括答弁方式  
質問時間 1人30分以内（答弁含まず）
  - 一般質問  
割当方法 ・各会派の議員数により年間の質問者数を配分し、各定

例会の会派別質問者数の割当ては、5月臨時会後の議会運営委員会において、年間分を協議する。

- ・会派所属議員数に変更が生じた場合は、その都度、会派別質問者数を協議するものとする。

質問方式 一括質問・一括答弁方式、一問一答方式

質問時間 1人25分以内（答弁含まず）

## ● 議会広報の取組

### ○ 高校生議会

次代を担う高校生に、県政や県議会への理解と関心を高めてもらうとともに、様々な意見を今後の県議会での議論の参考とすることを目的に、高校生議会を実施。

高校生が議長を務め、議事を進行し、常任委員会の各委員長が答弁を行うこととしている。

### ○ 県議会広報テレビ番組

民放のテレビ番組に議員が出演し、定例会における代表質問等を中心に、県政の重要課題について幅広く議論している。年8回放送しており、うち1回は地元大学生を交えて討論を行っている。

## ◆ 主な質疑・回答

Q 県議会広報テレビ番組の放送内容について

A 大きな構成として、年8回のうち4回は代表質問等を中心とした県政の重要課題について、残りの4回は特定のテーマを設けて、その課題や取組について、幅広く議論する内容としている。

Q 若年層の投票率への影響について

A 令和5年の投票率は39.73%と前回から下がってしまったが、これは全国的に同じ傾向と分析している。今後も長期的な視点で、若年層の投票率アップに向けて、高校生議会の取組を継続していきたい。



## □ 委員長所見

岡山県議会では、議会改革・議会活性化の取組の1つとして、高校生議会を実施しており、ホームページ等で生中継や録画配信を行うほか、会議録や参加校の質問要約、体験した高校生議員のアンケート結果等を報告書にまとめて、冊子の配付やホームページ公開に取り組むなど、開催後の積極的な情報発信にも力を入れていると感じた。

次代を担う高校生から県政や県議会に対する関心を高めてもらうことは重要であり、本県においても、岡山県議会の事例を参考にしながら、議会広報等の取組につなげてまいりたい。

## 広島県議会 ～議会運営の状況について～

- 議員定数 定数 64人、現員 63人
- 会派別議員数 自由民主党議員連盟 34、民主県政会 14、公明党 6、自由民主党広志会 3、日本共産党 2、自由民主党議員会 1、無所属ひとわ 1、ひろしま、刷新。 1、義友会 1
- 議会運営委員会 定数 12人  
〔自由民主党議員連盟 8、民主県政会 3、公明党 1〕
- 本会議の運営
  - 代表質問
    - 割当方法 5人以上の会派 各1人
    - 質問方式 一括質問・一括答弁方式
    - 質問時間 1人40分以内（答弁含まず）
  - 一般質問
    - 割当方法
      - ・各会派の議員数により4年間の質問者数を配分し、各定例会の会派別質問者数の割当ては、定例会開会前月の常任委員会日に開催される議会運営委員会において決定する。
      - ・会派所属議員数に変更が生じた場合は、その都度、会派別質問者数を変更するものとする。
    - 質問方式 一括質問・一括答弁方式、一問一答方式
    - 質問時間 1人30分以内（答弁含まず）
- 議会広報の取組
  - 子供議会  
広島県内に在学又は在住する小学5年生から中学3年生までの児童生徒40人程度を対象に、子供議会を開催。  
参加者決定後、勉強会を2回開催し、議会についての学習や子供議会で発表する提案の作成等を行う。子供議会当日は、議場において知事などに提案発表を行うほか、県議会議員との交流会を開催している。
- 議会改革・議会活性化の取組
  - オンライン委員会
    - ・ 条例等改正時期  
令和4年12月定例会で委員会条例を改正。併せて運用要領を制定。
    - ・ オンライン出席が可能な事由  
重大な感染症のまん延、大規模災害の発生

- ・ 正副委員長のオンライン出席  
正副委員長のオンライン参加は想定していない。
  - ・ 執行部のオンライン出席 認めていない。
  - ・ 表決方法 起立採決（状況によっては挙手）
- 議会改革推進委員会  
議会改革の推進に関する議長の諮問事項について調査検討を行うため、議会基本条例に基づき設置。これまで監視機能の強化、政策立案機能の強化、県民に開かれた身近な県議会の実現、その他議会改革に必要な方策について、議長からの諮問事項に基づき、必要な調査・検討を行っている。
- 政策条例検討委員会  
政策条例の立案に当たり、条例化することの妥当性の検討や条例案の作成に係る会派間の意見調整及び執行部との調整等を行う機関として、会議規則に基づき政策条例検討委員会を設置している。

#### ◆ 主な質疑・回答

Q 各定例会の開会前日に開催する常任委員会について

A 本県議会では、常任委員会を毎月開催し、閉会中の調査事件を審査しているが、定例会直前の常任委員会は、閉会中の調査事件のほかに、執行部が各委員会に対して、定例会の提案見込事項を丁寧に説明する機会となっている。なお、提案見込事項についての質疑は、定例会中に行うこととなっている。



Q 政策条例検討委員会について

A 交渉会派のみで構成されているが、交渉会派以外の少数会派からも条例化の提案は可能であり、常任委員会や特別委員会の中で議論が進み、具体的な条例化の提案がされると、政策条例検討委員会で最後の仕上げをする流れとなる。

#### □ 委員長所見

広島県議会では、議会改革推進委員会を設置し、議会改革の推進に関する議長からの諮問事項について幅広く調査・検討を行っており、特に県民に開かれた身近な県議会の実現に向けて、親子傍聴室の設置やユーチューブによる配信、子供議会の開催、本会議録速報版の公開を実現させるなど、具体的な成果につなげている。

県民から議会に対する関心を高めてもらうことは重要であり、本県においても、広島県議会の事例を参考にしながら、議会改革等の取組につなげてまいりたい。

## 広島県 商工労働局 ～「ひろしまユニコーン10」プロジェクトについて～

### ● 概要

広島県では、令和4年から「ひろしまユニコーン10」プロジェクトを開始し、「ユニコーン企業に匹敵するような、企業価値が高く急成長する企業を10年間で10社創出する」ことを目標に、スタートアップ企業等の支援に向けた取組を推進している。

広島県はもともと製造業が盛んで、人口・GDPはともに全国12位、1人あたり県民所得額は西日本第2位と上位に位置していたが、近年は工場の閉鎖等に伴い出荷額が徐々に減少傾向にあり、これに危機感を抱いた県知事が自ら陣頭指揮を執り、職員総勢50名体制で「ひろしまユニコーン10」プロジェクトをスタートさせた。



「ユニコーン企業」の一般的な定義は「創業10年以内」「未上場」「テック系企業」「10億ドル以上の企業価値」であるが、本プロジェクトでは特に「10億ドル以上の企業価値」達成に重点を置き、スタートアップ企業はもとより、企業内で新事業へのチャレンジを目指す人や後継ぎとして新事業に挑戦する人などに対し幅広く支援を行っている。

ユニコーン企業が1社でも現れることが地域経済への刺激となり、それが次なる挑戦へつながり、新たなユニコーン企業を創出するという循環構造の構築を目指している。

本プロジェクトにおいて、県はスタートアップ企業等に対し、10のサポートメニューを提供している。主な内容は下記のとおり。

- ・交流拠点「イノベーション・ハブ・ひろしまCamps」を設置し、イノベーション創出の場を提供
- ・実証フィールド「ひろしまサンドボックス」を提供し、法規制などで新規参入の難しい分野に対し、県が一部規制緩和の働きかけを行い、新規事業の実証支援を実施
- ・スタートアップ企業が事業内容を発表する「アクセラレーションプログラム」を開催し、先輩起業家からアドバイスを受けたり大企業とマッチングしたりする機会を提供
- ・広島県内だけでなく首都圏で開催されるイベントなどへの登壇・参加を通じ、投資会社等からの資金調達機会を提供

- ・海外市場への展開を目指し、とりわけ高い需要が見込まれる東南アジア及び北米において、現地の支援団体と連携し、ネットワーク構築や拠点設置、現地人材採用などを支援

◆ **主な質疑・回答**

Q 現時点における事業実績について

A ユニコーン企業として企業価値10億ドル、日本円にして約1,400億円を目指すものであるが、取組を始めて4年目の実績としては、時価総額100億円弱が2・3社、30～50億円が約10社となっており、まだ目標に到達している企業はない。

Q 支援対象企業の採択について

A スタートアップ企業の全てがユニコーンを目指しているわけではなく、多くの企業は、社会課題を解決するソーシャル分野や、利益追求と社会との共存を重視するゼブラ企業を目指しており、ユニコーンを目指すのはごく一部である。そのため県としては、募集をする際に、ユニークにやりたいという熱意のある企業を優先的に採択するとともに、先輩起業家等からの助言や指導を通じて支援するなど、集中的に取組を進めている。

Q 資金調達の取組について

A 本プロジェクトでは、日本政策金融公庫から広島県に職員を1人派遣してもらっており、公庫の資本性ローンを担当している。これまで実際にいくつかのスタートアップ企業の融資獲得につながっている。

□ **委員長所見**

広島県では「ひろしまユニコーン10」プロジェクトを立ち上げ、スタートアップ支援に取り組んでおり、多彩なメニューによる手厚い支援を行っている。

本県においても、意欲ある人たちが起業・創業にチャレンジしやすい環境づくりをより一層推進し、県経済の更なる活性化につながるよう、広島県の取組を参考としながら施策を提案してまいりたい。

**山口県議会 ～議会運営の状況について～**

- **議員定数** 定数 47人、現員 47人
- **会派別議員数** 自由民主党 28、公明党 5、やまぐち県政会 4、日本共産党 3、政友会 1、自由民主党新生会 1、社民党・市民連合 1、新政クラブ 1、草の根 1、県民の誇りを育む会 1、すずらんの会 1
- **議会運営委員会** 定数 13人  
 [ 自由民主党 9、公明党 2、  
 やまぐち県政会 1、日本共産党 1 ]

## ● 本会議の運営

### ○ 代表質問

割当方法 4人以上の会派 各1人  
質問方式 一括質問・一括答弁方式  
質問時間 1人30分以内（答弁含まず）

### ○ 一般質問

割当方法 ・「質問質疑実施要綱」により人数を規定している。  
・要綱に人数を規定しているため、年間の質問者数の調整や、会派所属議員数の変更を契機とした質問者数の調整は行われていない。

質問方式 一括質問・一括答弁方式

質問時間 ・代表質問を行うことのできる会派は、1人本質問30分以内、再質問10分以内、再々質問5分以内  
・代表質問を行うことのできない会派は1人30分以内（本質問、再質問、再々質問含む）

※上記のいずれも答弁を含まない。

## ● 議会広報の取組

### ○ 高校生県議会

次代を担う県内の高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心を高めってもらうため、高校生県議会を開催。

### ○ 中高生等を対象とした議会見学の受入れ

中学生・高校生等に県議会への関心を高め理解を深めてもらうため、議会体験学習や選挙の説明など、より実践的なプログラムを取り入れた議会見学の受入れを実施。

## ● 議会改革・議会活性化の取組

### ○ オンライン委員会

- ・ 条例等改正時期 令和5年3月14日（委員会条例）
- ・ オンライン出席が可能な事由  
重大な感染症のまん延防止、大規模な災害の発生、その他非常事態が発生した場合
- ・ 正副委員長のオンライン出席  
委員長の職務を行う者はオンライン出席不可
- ・ 執行部のオンライン出席 認めていない。
- ・ 表決方法 挙手、簡易採決

## ● 議員提案による政策条例

### ○ 政策立案等検討会

発議しようとする議員の申出を受け、議長が適当と認める場合に設置。超党派で構成しており、関係部局との協議、会派間の調整等を行っている。

## ◆ 主な質疑・回答

Q 高校生議会について

A 高校生議員は、山口県議会の議員定数と同じ47人を、教育委員会を通じて募集し、議長が任命。議場では、高校生議員の代表が各部局に対して1～2問ずつ質問し、それに対して1問は知事、残りは部局長が答弁している。

また、高校生議員に意見書を取りまとめて提出してもらい、実際に起立採決するところまで行っている。

Q 令和7年度に導入予定のA I 音声認識システムについて

A 高齢や障害等で音声聞き取りにくい方に向けて、字幕を付したインターネット中継での配信や、傍聴席に設置したモニターに議場等での発言内容を表示するA I 音声認識システムを今年度導入する方向で検討を進めている。

## □ 委員長所見

山口県議会では、次代を担う若者を対象に高校生議会を開催しているほか、中高生等を対象に、より実践的なプログラムを取り入れた議会見学の受入れを行うなど、若い世代に向けた取組に力を入れている。

また、令和7年度には、高齢や障害等で音声聞き取りにくい方にも議会での審議内容等が伝わるよう、A I 音声認識システムによる字幕表示の導入を予定している。

幅広い県民から議会に対する関心を高めてもらうための先進的な取組を進めており、本県においても、山口県議会の取組を参考にしてまいりたい。

